

大震災を乗り越えて 復興、再建に尽くしたい

旭日税理士法人
代表理事 税理士

桑畑 弘道

くわ はた ひろ みち
さん 創価大学経営学部卒業

創価大学は開学以来「学生のための大学」「社会に貢献する大学」を掲げ、人間教育に力を入れてきました。学術交流は世界五大大陸の四六方国・地域一三二大学に広がり、交換留学等を盛んに行っています。卒業生は経済界をはじめ法曹界・教育界・スポーツ界など、国内外のさまざまな分野で幅広く活躍しています。

東日本大震災の被災

を乗り越えて、復興、再建に汗を流す税理士がいる。仙台市宮城野区で旭日税理士法人の代表を務める桑畑弘道さんだ。五人の税理士で約二五〇社の面倒を見る。その殆どが今回の震災に遭った。

「まずは皆さんの気持ちに寄り添うことを心がけています。そして再建の第一歩は経営戦略と資金調達。融資専門の担当者置き、一緒に金融機関を回るケースもあります」



廃業するかどうかで悩んでいる経営者の方もいらっしやいます。話をじっくり聞いたりして、「大丈夫です。諦めずに復興しましょう」と背中を押すこともある。

「税理士業務の範囲を超える相談もあります。復興に向

活気づいてきたJR仙台駅前の広場で

けて皆さんが前向きな気持ちになれるよう、すべてのことに全力で取り組んでいます」

桑畑さんは熊本県の母子家庭に育つ。国立大学への進学を考えたが、高三の秋に創価大学に在籍する先輩から人々に貢献する建学の理念を聞き、進路を決めた。また受験のとき、その先輩が住むアパートに泊まらせてもらい、外交官

をめざして勉強に励む姿を目の当たりにした。

「目を輝かせて夢を語る、爽やかな方でした。こういう先輩がいる大学に入りたい、と思いました」

入学後は弁護士や公認会計士、国家公務員を目指す国家試験研究室で日夜勉強に励んだ。二年生の時、ある先輩から将来について尋ねられ、

「健気に頑張っている人たちのために働きたい」と答えるのと、「会計士よりも中小企業の支援ができる税理士が合っている」と勧められた。

「大学四年間、様々なバイトを経験しました。一日一〇時間の勉強で、四年生のときに五科目一括受験し、うち三科目に合格し、卒業後、東京の会計事務所勤務しながら残り二科目に合格しました」

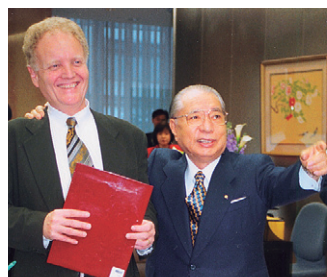
「大学というのは大学に行けなかった人のためである」これは創立者の言葉ですが、被災された皆さんに寄り添い、会社の再建に全力を尽くすことが創大に学んだ私の使命です。お陰様で苦勞をかけた熊本の母も元気で幸せに暮らしています」

誠実な挑戦を続ける桑畑さんの胸にはこの言葉が刻まれている。



Hiromichi Kuwahara

くわはた・ひろみち／一九六八年熊本県生まれ。八七年創価大学経営学部入学、九一年同大卒業。九四年税理士試験合格。九一年公認会計士林徳事務所（現、大光税理士法人）入所。二〇〇〇年退所後独立。現在、旭日税理士法人（あさひぜいりしほうじん）代表理事。登録政治資金監査人。東北税理士会指導研修部副部長。東北税理士会仙台支部幹事。税務を中心に、他工業の資格者も所属する税理士法人を主宰し、ワンストップのサービスを目指す。



1999年、マサチューセッツ工科大学教授で『ゼロ・サム社会』などの著書でも知られる経済学者レスター・サロー博士と、創価大学創立者池田大作先生は2度にわたって対談を行った。「これからは頭脳産業の時代。知識、知力、創造力が勝負」と語るサロー博士に対して、創立者は「軍事的競

争、政治的競争、経済的競争を超えて、皆が勝者となる社会を建設するための智慧をともに探っていく」と語った。創立者池田先生は、これまでに平和や人権などをテーマに、トインビー博士をはじめ、アンドレ・マルロー氏やガルブレイス博士など、世界の学識者との対話を半世紀以上続けている。